

ならちゅうしん経営研究会 例会報告

第 387 回 研究会

日時 令和 7 年 6 月 18 日(水) 午後 4 時 ~ 午後 5 時 30 分
場所 奈良中央信用金庫 3 階 ホール
講師 SMBC日興証券株式会社 金融経済調査部
チーフ為替・外債ストラテジスト 野地 慎 氏
テーマ 「経済セミナー」
~2025 年の金融市場見通し~

最初に、芳仲会長より開講の挨拶があり、「店頭で米の安さに並ぶ行列」と「ミスタードーナツの新作もちゅりに並ぶ行列」を例に挙げられ、今年度の経営研究会を締めくくる経済セミナーを開始しました。今回は SMBC 日興証券株式会社よりチーフ為替・外債ストラテジストの野地慎様をお招きして「経済セミナー」と題して、2025 年の金融市場の見通しについてのお話を頂きました。

野地氏は為替アナリストとして大変人気で「週刊ダイヤモンド」に定期連載、テレビ東京「モーニングサテライト」に出演されるなど、ご活躍中のエコノミストです。

まず最初に、これまでのアメリカ経済の強さについて解説いただきました。

為替については、2つの顔があり、「金利」と「実需」が大きく作用しているとの事。中でも「金利」は「株価」の影響が大きく、昨年まではアメリカはインフレ下でも個人消費が強かったことで金利・株価とも上昇し、その結果日米金利差が生じ為替相場に影響を及ぼし、一時 160 円/1 ドルとなった。今年に関してはアメリカの株価が伸び悩んでいる点を指摘し、ハイテク銘柄に関してはディープシークの様な海外勢の台頭が不振の要因の一つに挙げられ、それにより個人消費は低下しており、FRBは9月以降に金利の引下げを視野に入れていることから、日米金利差が縮小し、来年にかけて 137 円/1 ドルを予想しているとお話をいただきました。

また、「実需」では日本は 2011 年以後、円売が強い国になったことで長期的には円安傾向が続くのではないかとの見解でした。

来年にかけては円高傾向であるが、明るいニュースとしては、輸入物価の上昇の大部分を占めている食料・エネルギーについて円高により国内販売価格が落ち着くのではないかとの見方が出来る。賃上げが継続出来ていれば来年後半くらいには国内消費が上向くと予想されるとのことです。

喫緊の課題はトランプ関税が落ち着くかどうかであり、輸入自動車と同部品に対する関税の折り合いがつかなければ主要自動車メーカーの利益圧迫は当然ながら、生産拠点を北米に移す動きが出ると国内の多くの部品サプライヤーにとって打撃となることから政府の

対応を注視したいとの話でありました。

講演のあとも、参加者より内外の経済動向に対する多くの質問があり、今年度最後の経営研究会を締めくくりました。

以上



芳仲会長 ご挨拶



講師 SMBC日興証券 野地 慎